

現代中国語における処置構文の意味と論理構造

—「把構文」—

温 珉

0. はじめに

「把構文」は中国語の難点の一つであり、中国語教育を行う上では避けて通れない問題である。「把構文」についてすでに様々な角度から研究をなされたが、「把構文」に関する定説は未だにない。今現在「把構文」は「処置」を表すという考えが主流であるが、論文ごとに「処置」の捉え方は違っている。たくさんの先行研究が存在するものの、「把構文」に対して明確に定義し、また「把構文」を中国語文法の中ではっきり位置づけをする研究はあまりないと思われる。それが原因で、中国語教育の現場で「把構文」を教える際には度々混乱を生じるのが現状である。

筆者は「把構文」は処置を表す「処置」構文であり、「受身」構文、「使役」構文と共に現代中国語のヴォイスを構成すると考える。本稿はこうした観点に立脚した研究をすすめるための理論的基礎として、形式意味論の枠組みに従い、中国語の処置構文である「把構文」に論理的形式を与えることによって、「把構文」が表す「処置」という意味を統一的かつ明示的に説明する。

1. 先行研究

述語論理を用いて「把構文」を与える前に、今まで「把構文」に対してなされてきた主な研究を年代順に見ておこう。

1.1 王力（1943）による「把構文」に対する研究

王力氏は『中国現代語法』においてもっとも早く「把構文」が「処置」を表すとはっきり述べている。「処置式」の定義を「助動詞によって目的語を述語の前に置き、処置を表すものは処置式と呼ぶ」としている。氏によれば、「把」は目的語を述語の前に持ってくる働きをする助動詞である。また、「処置式」の表す意味について氏は次のように記述している。「「処置式」は人を如何に配置するか、或いは使役するか、或いは扱うか、または物事を如何に処理するか、或いは進めるか」であり、処置式には「処置」という性質を持たない動詞が使用できない。例えば、「爱」と「开花」のような動詞はともに氏の「処置式」には適応しない。

王（1943）の「把構文」が「処置」を表すという指摘はそれ以後の「把構文」の研究に大きな影響を及ぼしている。しかし、「処置式」の表す意味に関する見解はいささか複雑に思われる。本稿は「処置」を「処置者」、「処置対象」、「出来事」の間の三項関係であると捉え、それによってより分かり易く「把構文」を捉えられるのではないかと考える。詳細な記述は本稿の2の部分を参照されたい。

1.2 趙元任（1979）による「把構文」に対する研究

趙（1979）は“把”を前置詞と見なし、「処置」を表すとまでは言及していない。しかし、動詞の分類の部分において、他動詞を「処置動

詞」と「非処置動詞」に分けており、「把構文」に使用可能な動詞として、“做”、“打”、“归置”、“称赞”など24個の動詞を挙げている。また、“发烧”的“发”が「把構文」に用いられない理由として“发”には「処置」の意味が含まれていないからであるとしている。その点から見れば、趙氏は“把”が「処置」を表すという考えの持ち主であると推測できる。

1.3 呂叔湘（1980）による「把構文」に対する研究

呂叔湘氏は《现代汉语八百词》で、「把」について論じている。具体的には「把」が数量詞として用いられる場合と「把」が前置詞として用いられる場合がある。ここでは本稿と関連のある「把」の前置詞的用法だけについて触れる。前置詞である「把」は名詞を伴って動詞の前に用いられる。この場合、「把」の後に来る名詞の大多数がその後にある動詞の目的語であり、「把」によって動詞の前に持つて行かれる。この場合、「把」は以下に示す五つの意味のどれかを表す。

その一、「処置」の意味を表す。例えば、“把房间收拾一下”。

その二、「使役」の意味を表す。例えば、“把嗓子喊哑了”。

その三、「動作の場所、或いは範囲」を表す。例えば、“把东城西城都跑遍了”。

その四、「期待に背く出来事が起こる」の意味を表す。例えば、“真没想到、把个大嫂死了”。

その五、「…を」、あるいは「…に対する」の意味を表す。例えば、“他能把你怎么样？”。

1.4 朱徳熙（1982）による「把構文」に対する研究

朱徳熙氏は《语法讲义》で「把」の後に使用される動詞の特徴、「把」

の目的語、「把」の役割について分析している。

「把」の後に現われる動詞は普通の単音節或いは二音節動詞ではなく、少なくとも動詞の重ね型でなければならないのである。さらに、もっともよく見られるのは動詞の前、或いは後に何か別の成分があるケースである。別の成分とは、例えば、動詞の前に副詞“一”、或いは“当”が作る前置詞構造、動詞の後にある補語、或いは接尾語“着”、“了”などを指す。例えば、

- a. 把桌子抹抹 (動詞の重ね型が使用されている。)
- b. 把头一抬 (副詞“一”が使用されている。)
- c. 把酒当水喝 (“当”構造が使用されている。)
- d. 把瓶子灌滿 (動詞の後に補語が使用されている。)
- e. 把衣服脫了 (接尾語“了”が使用されている。)

「把」の目的語がその後の動詞の受動者であるケースがもっともよく見られるケースである。例えば、“把那口猪宰了”である。「把」の目的語が動作主を指すケースもあるが、この場合の動詞はしばしばマイナスの意味を表す自動詞である。例えば、“去年又把老伴死了”。

「把」の役割について、朱徳熙氏は「把」の役割が動詞の後にある目的語を前に持つべき、「把構文」が「主語—動詞—目的語」構文を変換して得られた構文であるとの従来の考え方を否定した。そのうえで、「把構文」ともっとも密接に関係しているのは受動文であることを明らかにした。

1.5 宋玉柱（1992）による「把構文」に対する研究

宋玉柱氏は1992年に刊行された《现代汉语语法基本知识》において「把構文」に対して定義をし、さらに「把構文」の文法的役割や「把構

文」を構成する様々な条件などを取り上げて論じている。ここでは本論と関係のある「把構文」の定義及び「把構文」の文法的役割のみを紹介する。

氏は「把構文」を「一般的に言えば、「把構文」とは前置詞「把」又は「将」を用いて述語動詞の受動成分を動詞の前に持っていく文型を指す」と定義している。

「把構文」の文法的役割について氏は基本的に王力氏の「処置」を表すという考え方と同調している。そのうえで、王力氏の提起した「処置」という用語が誤解を招きやすいとも指摘し、「処置」という概念については次のように理解しなければならないと述べている。所謂「処置」とは文中にある述語動詞の表す動作が、「把」によって前置された対象に対して、ある種の積極的な影響を及ぼし、それによってその対象がある種の変化を遂げるか、或いはある種の結果になるか、或いはある種の状態に陥るということを指す。

1.6 薛鳳生（1994）による「把構文」に対する研究

薛（1994）は「把構文」の構造を「A 把 B + C」と定めたうえで、その意味を「A が原因で、B が C の述べている状態になった」と解釈している。そして「A 把 B + C」構造中の A、B、C についてもそれぞれ論じている。具体的な記述は次の通りである。

「A 把 B + C」中の A は「把構文」の主要な話題ではなくて副次的な話題である。意味においても文法上においても A と述語 C は間接的な関係にある。「把構文」において、A は省略することができる。A の「把構文」での役割は「A があるから、"把" によって結び付けられて B が C の述べている状態になれた」のである。

「A 把 B + C」中の B は「把構文」の主要な話題であると同時に述語

C の主語である。従って、いかなる場合でも B を省略することはできない。B になるのは必ず「確定項」である。

「A 把 B + C」中の C はある動作によって B に対してもたらされた状態の「記述的表現 (descriptive statement)」でなければならない。「記述的表現」という名称は単純に形容詞或いは修飾語を指すのではなく、「陳述」の意味である。この「記述的表現」が「把構文」の述語の役割をはたす。記述しているのはある時点に B が呈する状態であって、B に対して起した行動や処置の過程ではない。C が比較的長い「記述性フレーズ」の場合、「動作動詞 + “得”」によって構成される。

1.7 崔希亮 (1995) による「把構文」に対する研究

崔 (1995) は「把構文」を「(A) 把 B—VP」と記述し、「把構文」の文法構造を典型的な構造とその他の構造の二つに分けている。

典型的な形式 VP=VR、或いは VP が VR を含む (R は結果補語である。) 例えば、“我把烟叼在嘴上”、或いは “把我的诗拿出来示众”。

その他の形式 (1) VP= (AD) + 一 +V。 (AD は状況語である。以下同様。) 例えば、“他把帽子往桌子上一摔”。

(2) VP= (AD) +V (一) V。 例えば、“你把桌布洗一洗”。

(3) VP= (AD) +VR (R は動量補語である)。 例えば “回身把平儿先打了两下”。

(4) VP=0、或いはある種の成語、或いは単独の V。 例えば、“我把你这小蹄子”、“把他千刀万剐方解我心头之恨”、“眉对眉来眼对眼、眼睫毛动弹把言传”である。

薛 (1994) の結論である「把構文」の構造が「A 把 B + VP」であり、

その意味は「A が原因で、B が C の述べている状態になった」であることについて修正を行った。

「把構文」の構造は A 把 B 一 VP である。VP が VR であるか、或いは VP が VR を含む場合が典型的な「把構文」であり、VP が動詞の重ね型、或いは動詞の前に“一”を使用する場合がその他の「把構文」となる。

意味に基づいて分類すると、「把構文」は二種類に分けられ、それは結果類及び情態類である。結果類の「把構文」は二つの記述 P1 と P2 の間に因果関係があるため、薛（1994）が述べている「A が原因で、B が C の述べている状態になった」のように分析できるが、情態類の「把構文」は P1 と P2 の間に因果関係がないため、そのようには分析できない。例えば、“你把头发理理”が情態類の「把構文」である。

1.8 金立鑫（1997）による「把構文」に対する研究

金立鑫氏は「把構文」の構造、意味及び文脈について言及している。

氏によれば「把構文」の構造には三つのタイプがある。それは A 把 B-VR、A 把 B-V、A 把 B-DV/A 把 B-V-NM である。使用された動詞は必ず結果補語、又は方向補語、又は量化補語を伴うか、重ね型を使用するか、或いは前置詞と一緒に現われるかのうちのどれかである。さらに、いずれも「V 得」構造に用いることが可能な動詞でなければならない。そういう動詞は、「他動詞」がほとんどであって、「自動詞」は一般に「把構文」に用いられることはない。

「把構文」の意味についても三種類の意味を表せると述べている。第一類は二つの主述フレーズの間に因果関係のある場合を表す、具体的に言えば「A のことで（原因）、B にある種の変化をさせた（結果）」である。例えば、“把脸冻得通红。”である。第二類は「A が B に対して働

きかけをする際に、A 或いは B がある種の状態を持つ」である。例えば、“他把书一扔、掉头就走了。” である。第三類は「A が B に対して特定量の行為で働きかけ、「把構文」の焦点を動詞の前の成分にあてさせることによって目的語を強調する」である。例えば、“他把这篇文章读了一遍。” である。

「把構文」がどのようなコンテクストで用いられるかについては、「把構文」の目的語はしばしば前の文の目的語と同じ対象を指す、これを同一指示関係と呼ぶ。この同一指示関係は文をつなぐ役割を果たすと同時に話題が絶えずに続くことを助ける。」と述べている。

1.9 張伯江（2000）による「把構文」に対する研究

張（2000）は「文型が完全な認知図式であり、構成成分の間の順序、距離、数量が文型の意味を構成する重要要素であると」述べ、認知心理学の概念である「順序原則」、「隣接原則」及び「数量原則」を用いて「把構文」の成分の論理関係について論じ、「全体を把握する」という方法がより強い解釈力を持つという結論に至っている。

氏は「文型「A 把 BVC」の意味は「A が原因で、対象 B に対して、V というやり方によって B が変化して C になる」である。このような文型の意味は動詞の支配能力（配価）を分析することによって、或いは使役者、非使役者の概念によって説明できるものではなくて、「全体觀」という文法的分析の結果であると言える」と指摘した上で、さらにこの「全体觀」を用いて「把構文」の様々な特徴に対して次のような統一的な解釈を与えている。

まず、A の原因という特徴は「把構文」が責任者を明示するという条件を満たさなければならないと表している。それは「把構文」と受事主語構文の違いにおいて、もっとも基本的な点である。

次に、B が動詞の前に位置する場合、意味上自立性が要求されるから、結果補語が排斥される。それに、形式上未知の情報を表す不定形式ではなくて確定形式が要求される。

最後に、B が「把」と主要動詞の間に位置する場合、意味上、受動のものに対して完全に影響を及ぼすことができる動詞の使用が要求される。そのため、王力（1943）で取り上げられた“爱、看、见、上、有、在”等の動詞や王还（1984）で取り上げられた“躲、到、遇到、得到、离开”等の動詞が「把構文」に用いられないのはそれらの動詞が精神的行为、或いは感受現象、或いは所有と存在を表すからではない。その根本的な原因は、述語が空間的な意味の上で事物に完全な変化をもたらすことを示すものではないという所にある。

1.10 範曉（2001）による「把構文」に対する研究

範曉氏は論文「动词的配价与汉语的把字句」において「把構文」の語用的意味について次のように指摘している。

「「把構文」中の“把+名詞”と後の動詞の間には二つのタイプの意味関係が存在する。その一つは処置の意味、つまり「名詞の指す対象を V によって処置する」である。もう一つは使役の意味、つまり「名詞の指す対象を V によってさせる」である。従って、「把構文」は処置構文と使役構文に分けることができる。」

処置把構文にの「処置」の意味について氏は「主語の指す対象が「把」の後の名詞の指す対象に対してある種の動作によって処置をこうむるという意味である。その動作は意識的でも無意識的でも、又は積極的でも消極的でもかまわない。」と述べている。さらに「処置」を表す「把構文」の特徴は「「把」の後の名詞は一般に受事であり、文中の「把」は「使」に変えることが出来ない。」としている。

また氏は使役把構文の「使役」を主語の指す対象が「把」の後の名詞の指す対象にある種の動作、或いは変化をさせることである」と位置づけ、さらに「「把」の後の名詞が被使役者であり、文中の「把」は「使」に取って代わらせることができる」という使役構文の特徴を挙げている。

1.11 沈家煊（2002）による「把構文」に対する研究

沈（2002）は「把構文」の意味は「主観的処置」であるとする。つまり発話者が主観的に主語が目的語に対してなんらかの処置をしたと認める際に使用されるとする。その判断のポイントとなるのが話者の「認定」である。「把構文」のこのような「主観性」は主に三つの面において表れる。つまり発話者の感情、発話者の視点、発話者の認識である。しかし、筆者の後ほどの分析では「把構文」の表す「処置」は主観性とはあまり関わらない、「客観的」なものと証明される。

1.12 熊仲儒（2004）による「把構文」に対する研究

熊（2004）は生成文法の立場から現代中国語の「使役」を表す構文を研究した著作である。その中で「把構文」についても言及し、「把構文」は「使役」を表すという認識を示していると同時に、「処置」を表す従来の考えも否定しないと明言している。言い換えれば、あらゆる「把構文」は「使役」を表すが、そのうちの一部にだけ「処置」の意味がまだ残っているというのである。

熊（2004）においては、「使役」は意味概念ではなく、文法概念として用いられ、文中のその他の成分と同じように意味を持つ。「把」は「使役」の意味上の携帯者である。「使役」が選ぶ項或いは参加者は「意識的」なものもあれば「無意識的」なものもある。意識的な参加者が選ばれた「把構文」は王力の言っている「処置」の意を表し、無意識的な

参加者が選ばれた「把構文」は王力の言っている「処置の活用」を表す。

熊（2004）は「把構文」の構造を次のように形式化している。

「把構文」：

[CausP Spec [Caus' [Caus 把] [BecP Spec [Bec' [Bec] [vp [Spec] [V]]]]]]]

1. 13 宛新政（2005）による「把構文」に対する研究

宛新政は著書《現代汉语致使句研究》において「把構文」について言及している。宛氏はその調査から「把構文」の大部分は「処置」を表し、一部分が「使役」を表すことを明らかにしている。また、語用論の面において、「処置」を表す「把構文」はしばしば背景文として用いられ、その後にさらに文が続くのに対し、「使役」を表す「把構文」はしばしば前景文として使用され、その後に続く文はないという見方も示している。

2. 本稿の研究対象

「把構文」の表す「処置」について論じた先行研究は多数あるが、論文ごとに「処置」の捉え方は違っている¹⁾。本稿は「把構文」の「処置」の意味は基本的に“把”によるものであると考える。具体的に言えば、“把”の表す「処置」は「誰かが何かに（ある行為による）処置をもたらす」という意味であり、「処置者」、「処置対象」、「出来事」の間の三項関係を表す。例えば、“妈妈把衣服都洗干净了”という文において、「処置者」は“妈妈”であり、「処置対象」は“衣服”であり、「出来事」は“(妈妈)洗(衣服)、(衣服)干净”となる。従って“妈妈把衣服都洗干净了”という文は「処置者」である“妈妈”が「処置対象」

である“衣服”に対して、“洗干净”という「処置」をもたらしたという意味を表している。

筆者の観察によれば、「把構文」は一般的な「把構文」、「使…把…」構文、「被…把…」構文、「把…被…」構文、「把…得…」構文、「把…給…」構文という六つのタイプに分けることができる。ここで一般的な「把構文」はどのような「把構文」かについて疑問を抱かれるかもしれないため、分類の基準を述べておこう。筆者は「使…把…」構文、「被…把…」構文、「把…被…」構文、「把…得…」構文、「把…給…」構文以外の「把構文」をすべて「一般的な「把構文」」としている。或いは「プロトタイプの「把構文」」と呼んで良い。本稿では一般的な「把構文」を中心に議論を進めていく。²⁾

3. 「把構文」の論理構造

すでに述べたように、本稿の目的は形式意味論の枠組みに従い、中国語の処置構文である「把構文」に論理的形式を与えることによって、その論理構造を明らかにし、その意味を考えることである。ここでまず筆者の「把構文」に対して仮説を提示しておく。以下、例文を分析しながら論を展開していく。

1. 我把这件事忘了。(范晓 2001 引用例)

(私はこの件を忘れてしまった。) (筆者訳)

松村 (2005) によると、中国語の処置構文、つまり「把構文」の“把”、は「…をもたらす」という意味を表す。それを念頭に置いて、例文1に含まれている命題内容を書いてみよう。それは「私はこの件にも

たらした」と「私はこの件を忘れた」と「私はこの件に私がこの件を忘れるなどをもたらした」という三個の命題内容である。その内、三番目の命題内容である「私はこの件に私がこの件を忘れるなどをもたらした」が「把構文」である例文1の意味全体をとらえていると考える。しかしそれで満足することはできない。なぜなら、我々の目的はすべての「把構文」を分析できる規則を構築することであり、どれか一つの例文を議論することではないからである。そのため、ここで命題内容「私はこの件に私がこの件を忘れるなどをもたらした」において、例文1とかかわる具体的な要素、つまり個体と命題を除くと次のような意味構造になる。

1-1. ～ガ ～ニ ～コトヲ モタラス

1-1の意味構造を観察すると、「モタラス」という意味は、「～ガ」、「～ニ」、「～コトヲ」の三つの部分と関係を生じる一種の関数として機能していることに気がつく。そこでメタ言語として述語論理を採用し、1-1の意味構造を記述すると次のようになる。

1-2. モタラス' (～ガ, ～ニ, ～コトヲ)

さらに形式1-2の抽象度をあげ、「～ガ」、「～ニ」、「～コトヲ」の三部分をそれぞれ「 α 」、「 β 」、「 γ 」の三つの項で置き換え、表記すると次のように書き換えることができる。

1-3. モタラス' (α , β , γ)

筆者はここで一つの仮説を提起したい。それは中国語の「把構文」は三個の項を持つ関数であるということである。説明の便宜上、「把」の意味を「モタラス」という日本語を用いて記述したが、以下では次の1-4のように論理表記に中国語を用いる。

1-4. 把' (α , β , γ)

ここで注意しなければならないのは、あまり見慣れない「把」という記述方法である。これは中国語の漢字の「把」の右上にプライム「'」を付したものである。これは論理式1-4において関数の論理的表記に用いられている。形式意味論の研究においては本来表記に使用される記号はすべてローマ字（例えば、 Ba' など語頭のみ大文字のもの）を使用するのが通例であるが、本稿では便宜的に中国語漢字を用いることにした。

以上の議論を踏まえて、改めて例文1を見てみよう。例文1は「私はこの件にもたらした」と「私はこの件を忘れた」と「私はこの件に私がこの件を忘れるることをもたらした」という三つの命題内容を含んでいる。従って例文1の述語論理表記は次のようになる。

1' 把' {我, 这件事, 忘' (我, 这件事)}
 モタラス' α β γ
 モタラス' ~ガ ~ニ ~コトヲ

ここでは“把' {我, 这件事}”が「私はこの件にもたらした」の意を、“忘' (我, 这件事)”が「私はこの件を忘れた」の意を、“把' {我, 这件事, 忘' (我, 这件事)}”が「私はこの件に私がこの件を忘れるこ

をもたらした」という意味を表す。

これよりいくつかの例文を分析することにより、仮説を検証してみよう。なおそれぞれの論理式の下に付したカタカナ表記は当該論理式に対する意味制約である。

4. 例文による検証

以下筆者の仮説を用いて、例文を分析するとともに検証していく。

2. 他们把简单的问题复杂化了。(范晓 2001 引用例)

(彼らは簡単な問題を複雑化した。) (筆者訳)

この文の処置と関連する部分を選び出すと、次のようになる。

2-1. 他们把问题复杂化。(彼らが問題を複雑化した。)

文 2-1 は「彼らが問題にもたらした」と「彼らが問題を複雑化した」と「彼らは問題に彼らが問題を複雑化することをもたらした」という三つの命題内容を含んでいる。従って、文 2-1 の述語論理表記は次のようになる。

2-1' 把' {他们, 问题, 复杂化' (他们, 问题)}

モタラス' ～ガ ～ニ ～コトヲ

ここで“把' {他们, 问题}”が「彼らが問題にもたらした」の意を、“复杂化' (他们, 问题)”が「彼らが問題を複雑化した」の意を、“把' {他们, 问题, 复杂化' (他们, 问题)}”が「彼らは、問題に、彼らが問題を複雑化することを、もたらした」という意味を表している。

ここでの「彼らは、問題に、彼らが問題を複雑化することを、もたらした」をより自然日常言語に書き直すと、「彼らが問題を複雑化した」という表現になる。これこそ文2-1の表す意味である。

3. 这活儿可把他累坏了。（范晓 2001 引用例）

（この仕事で彼はすっかり疲れはてた。）（筆者訳）

例文3は「仕事が彼にもたらす」と「仕事が彼を疲れさせた」と「疲れることがひどい」と「仕事は彼に仕事が彼を疲れさせることをもたらした」という四個の命題内容を含んでいる。従って例文3の述語論理表記は次のようになる。

3' 把' {活儿, 他, 累' (活儿, 他) & 有' (累, 坏)}
モタラス' ～ガ ～ニ ~コトヲ

ここで“把' {活儿, 他}”が「仕事が彼にもたらす」の意を、“累' (活儿, 他) & 有' (累, 坏)”が「仕事が彼を疲れさせ、彼が疲れる（程度）はひどかった」の意を、“把' [活儿, 他, 累'] (活儿, 他) & 有' [累' (他), 坏']”が「仕事は、彼に、仕事が彼をひどく疲れさせることを、もたらした」という意味を表している。

「仕事は、彼に、仕事が彼をひどく疲れさせることを、もたらした」という表現は文3の直訳的な意味であるが、日常生活では使用しない表現である。これをより自然な日本語に書き直すと、「彼は仕事で疲れた」となる。これが文3の表す意味である。

4. 这件事把他忙了一阵子。(范晓 2001 引用例)

(その件が彼をしばらく忙しくさせていた。) (筆者訳)

文4は「その件が彼にもたらした」と「その件が彼を忙しくさせた」と「忙しいことがしばらくあった(続いた)」と「その件は彼にその件が彼をしばらく忙しくさせることをもたらした」という四つの命題内容を含んでいる。従って文4を述語論理表記すると、次のようになる。

4' 把' {这件事, 他, 忙' (这件事, 他) & 有' (忙, 一阵子)}
 モタラス' ～ガ ～ニ ~コトヲ

ここで、“把' {这件事, 他”が「その件が彼にもたらした」の意を、“忙' (这件事, 他)”が「その件が彼を忙しくした」の意を、“有' (忙, 一阵子)”が「忙しいことがしばらくあった(続いた)」の意を、全体の“把' {这件事, 他, 忙' (这件事, 他) & 有' (忙, 一阵子)}”が「その件は彼にその件が彼をしばらく忙しくさせることをもたらした」という意味を表している。

ここでは、「把'」関数の第三項に“忙' (这件事, 他)”という関数の値と“有' (忙, 一阵子)”という関数の値が連言(&)で結びつけられていて、同時に成立することを表している。その根拠は文4の意味にある。文4には命題「その件が彼を忙しくさせた」と「忙しいことがしばらくあった(続いた)」という意味がともに含まれているため、二つの命題が同時に成立しなければならないからである。

また、「その件は、彼に、その件が彼をしばらく忙しくさせることを、もたらした」をより自然な表現に書き直すと「その件が彼をしばらく忙しくさせていた」となり、これが文4の表す意味である。

5. 要小心、別把个犯人跑了。(范晓 2001 引用例)
(気をつけろ、犯人を逃がさないように。) (筆者訳)

5 の文を議論に不用な部分を除くと、次のようになる。
5-1. 把犯人跑了。((誰かが) 犯人を逃がした。)

文 5-1 は「誰かが犯人にもたらした」と「犯人が逃げた」と「誰かが犯人に犯人が逃げることをもたらした」という三個の命題内容を含んでいる。従って文 5-1 を述語論理表記してみると、次の論理式 5-1' になる。

5-1' 把' { ϕ , 犯人, 跑' (犯人)}
モタラス' ～ガ ～ニ ～コトヲ

原文において「誰か」を指す具体的な指示語が現れていないため、述語論理表記をする際にはギリシャ文字「 ϕ 」を用いて記述する。ここで、“把' { ϕ , 犯人” が「誰かが犯人にもたらした」の意を、“跑' (犯人)” が「犯人が逃げる」の意を、“把' { ϕ , 犯人, 跑' (犯人)}” が「誰かが犯人に犯人が逃げることをもたらした」という意味を表している。

「誰かが犯人に犯人が逃げることをもたらした」という表現は「誰かが犯人を逃がした」を意味している。しかしこれはまだわれわれが求めている文 5-1 の意味ではない。なぜなら、5-1 の文には「誰か」を指示する具体的な語彙項目は含まれていないが、「誰かが犯人を逃がした」という文には「誰か」がある。従って文 5-1 の意味を得るには「誰かが犯人を逃がした」から「誰かが」を省かなければならない。その結果と

して「犯人を逃がした」

という文が得られる。これが文5-1の表す意味である。

5. 結びにかえて

以上形式意味論の枠組みに従い、プロトタイプの「把構文」に対してその論理構造を明らかにし、その意味を解釈した。考察のプロセスが示しているのは、筆者の提案、つまりプロトタイプの「把構文」を三個の項を持つ関数と見なし、「モタラス」（～ガ、～ニ、～コトヲ）」という論理構造に基づいて「把構文」に意味解釈を与えることが妥当だということである。従って、本稿はプロトタイプの「把構文」が三つの項を持つ関数であり、「モタラス」（～ガ、～ニ、～コトヲ）」という論理構造に基づいて意味解釈を与えられることを証明したと言えるでしょう。

- 1) 「厳密に言えば、「把構文」の「処置」の意味は前置詞である“把”によるものではなくて文中の主要動詞によるものである」と述べている論述もあれば、「把構文」の「処置」の意味は“把”より発生しているとする研究もある。前者の代表に梅広（1978）が挙げられ、後者の代表に張濟卿（2000）をあげることができる。また、邵敬敏（2000）は「把構文」が「処置」を表すか否かは述語動詞及び“把”の後の目的語の間の文法関係によって決まる」と述べている。
- 2) 「特殊な把構文」に関しては「「把構文」その二」で議論する予定である。

参考文献

- 陳嘉映、2006、『語言哲学』、北京大学出版社
- 程琪龍・王宗炎、1998、「兼語一般句式和把字句的語義特徵」、『語文研究』、第一期
- 崔希亮、1995、「“把”字句的若干句法語義問題」、『世界漢語教學』、第三期
- 戴浩一、1994、「以認知為基礎的漢語功能語法芻議」、『功能主義与漢語語法』、北京語言学院出版

社

- 范曉、2001、「動詞的配備和漢語的把字句」、『中國語文』、第四期
- 范曉·張豫峰、2001、「“V 得”後主謂結構的語義分析」、『中國學研究』、第四期
- 方立、1997、『數理語言學』、北京語言文化大學出版社
- 方立、2000、『邏輯語義學』、北京語言文化大學出版社
- 傅雨賢、2006、『語法·方言探微』、廣東高等教育出版社
- 高順全、2005、『對外漢語教學探新』、北京大學出版社
- 戈弋、1990、「把字句位置式的起源」、『中國語文』、第三期
- 龔千炎、1994、「論“把”字兼語句」、『語言文字探究』、北京語言學院出版社
- 何英玉、2005、『語義學』、上海外語教育出版社
- 賈彥德、2005、『漢語語義學』、北京大學出版社
- 蔣敬·潘海華、1998、『形式語義學引論』、中國社會科學出版社
- 金立鑫、1997、「“把”字句的句法、語義、語境特徵」、『中國語文』、第三期
- 劉月華等、1983、『實用現代漢語語法』、外語教學與研究出版社
- 呂叔湘、1982、『中國文法要略』、北京商務印書館
- 呂叔湘、1965、「“把”字句、“把”字句動詞帶賓語」、『漢語語法論文集』、北京商務印書館
- 呂叔湘、1980、「把字用法的研究」、『漢語語法論文集』、北京商務印書館
- 呂叔湘、1980、『現代漢語八百詞』、北京商務印書館
- 馬真、1985、「“把”字句補議」、『現代漢語虛詞散論』、北京大學出版社
- 馬清華、2006、『語義的多維研究』、語文出版社
- 沈家煊、2002、「如何處理“位置式”——試論把字句的主觀性」、『中國語文』、第五期
- 沈家煊、2006、『認知與漢語語法研究』、商務印書館
- 沈陽、1997、「名詞短語的多重移位及“把”字句的構造過程與語義解釈」、『中國語文』、第六期
- 宋玉柱、1992、「“把”字句」、『現代漢語語法基本知識』、語文出版社
- 王還、1957、「“把”字句和“被”字句」、上海教育出版社
- 王還、1985、「“把”字句中“把”的賓語」、『中國語文』、第一期
- 吳剛、2006、『生成語法研究』、上海外語教育出版社
- 薛鳳生、1987、「試論“把”字句的語義特徵」、『語言教學與研究』、第一期
- 薛鳳生、1994、「“把”字句和“被”字句的結構意義」、『功能主義與漢語語法』、北京語言學院出版社
- 宛新政、2005、『現代漢語致使句研究』、浙江大學出版社

- 熊仲儒、2004、『現代漢語中的致使句式』、安徽大学出版社
- 葉向陽、2004、「“把”字句的致使性解釈」、『世界漢語教學』、第二期
- 袁毓林、2004、『漢語語法研究の認知視野』、商務印書館
- 趙元任、1979、『漢語口語語法』、商務印書館
- 張伯江、2000、「論“把”字句的句式語義」、『語言研究』、第一期
- 張伯江、2001、「被字句和把字句的對稱与不對稱」、『中國語文』、第六期
- 張旺熹、1991、「“把”字結構的語義及其語用分析」、『語言教學与研究』、第三期
- 張旺熹、2001、「“把”字句的位移圖式」、『語言教學与研究』、第三期
- 朱德熙、1980、『現代漢語語法研究』、北京商務印書館
- 朱德熙、1982、『語法講義』、北京商務印書館
- 木村英樹、2000、「中國語ヴォイストの構造化とカテゴリ化」、『中國語学』、No. 247
- 郡司隆男、1987、『自然言語の文法理論』、産業図書
- 白井賢一郎、1985、「形式意味論入門—言語・論理・認知の世界—」、産業図書
- 杉村博文、2007、「中國語授与構文のシンタクス」、『大阪外国语大学論集』、第35号
- 杉本孝司、1998、「意味論1——形式意味論」、くろしお出版
- 寺村秀夫、1982、「日本語のシンタクスと意味 I」、くろしお出版
- 寺村秀夫、1982、「日本語のシンタクスと意味 II」、くろしお出版
- 寺村秀夫、1982、「日本語のシンタクスと意味 III」、くろしお出版
- 布川雅英、2005、「“把”構文の目的語について」、『言語と文化』、第12号、神奈川大学大学院外国語研究科
- ウイトゲンシュタイン、2005、「論理哲学論考」（野矢茂樹訳）、岩波書店
- 野矢茂樹、2006、「ウイトゲンシュタイン「論理哲学論考」を読む」、筑摩書房
- 丸田忠雄、1998、「使役動詞のアナトミー 語彙的使役動詞の語彙概念構造」、松柏社
- 松村文芳、2005、「“把”構文と“被”構文」に用いられる「給」の意味と論理」、『語学教育研究論叢』第22号、大東文化大学語学教育研究所
- 鷺尾龍一、2005、「受動表現の類型と起源について」、『日本語文法』、五巻二号
- アイバン・A・サグ、トーマス・ワゾー、2001、「統語論入門：形式的アプローチ」（郡司隆男、原田康也訳）、岩波書店
- Chomsky, Noam 1957.『Syntactic Structures』. Mouton, the Hague
- Dowty, David 1981.『Introduction to Montague Semantics』. D. Reidel Publishing Company
- Emmon, Bach 1989.『Informal Lectures On Formal Semantics』. State University of New York

Press

Frege, Gottlob, 2006、『弗雷格哲学論著選輯』(王路訳)、商務印書館

カール・ポラード、アイバン・A・サグ、1994、『制約に基づく統語論と意味論——HPSG 入門』(郡司隆男訳)、産業図書

オールウド、アンデソン、ダール、1994、『日常言語の論理学』(公平珠躬、野家啓一訳)、産業図書